

茂山忠三郎

春の狂言の会

平成31年 3月2日 (土曜日)

午後1時30分開演 (午後0時30分開場)

於…大濠公園能楽堂

福岡市中央区大濠公園1番5号 Tel 092・715・2155

入場料5千円

(いなばどう)

因幡堂

男

川邊宏貴

女

中島清幸

後見

C・キングスリー

(いろは)

以呂波

息子

茂山良倫

親

茂山忠三郎

後見

河原康生

(かぎゅう)

蝸牛

山伏

茂山忠三郎

主人

篠原太一

渋田昭典

後見

秋吉英二

太郎冠者

附祝言

国際ソロプチミスト福岡は、世界の女性と女兒の生活を向上させるという目標に向かって活動をしています。

主催…国際ソロプチミスト福岡

協賛…大宰府天満宮・(公財)九州国立博物館振興財団

協力…福岡大蔵会

問い合わせ先…090・9471・6643 永嶋



因幡堂（いなばどう）

狂言の中に出てくる女性を狂言の作者はしっかり者として描いていることが多いと思われます。このお話、亭主が一方的に離縁状を妻に送りつけ妻乞いの為にお薬師の因幡堂へお願いに行きますが、・・・・驚くことになります。曲名にある五条の因幡堂の薬師如来は、日本三如来として庶民の信仰を集めていました。

以呂波（いろは）

親が子に「いろは」を教える事になりますが、親が「い」と教えると子は「燈芯」と答え、「う」と言うと「偕」と答えます。「ちり」と言うと「座敷のちりを集めて火にくべる」と答えます。利発の子がわざと答えているように思えます。狂言の修行は、口うつしに教えますので、初舞台によく用いられる演目です。本日は良倫君（四歳）の初シテ、初舞台。四歳の幼児がたどたどしく口真似をし大人を突いていくのは、いかにもかわいらしい一番だ。

*燈芯草（藺草（いぐさ）の事）

蝸牛（かぎゅう）

大峰、葛城で、修行を終えた駆出の山伏が羽黒山へ戻る途中、藪の中で寝てしまいます。そこへ、主人から長寿である蝸牛（かたつむり）を取って来いと命じられた太郎冠者が、この山伏を蝸牛と間違えるお話です。山伏が「でんでんむしむし」と嘯します。昔、京の子どもたちのわらべ歌とされています。